

くじゅう坊ガツル地域の野鳥

坊ガツル地域は中央部を鳴子川が流れ、その両側に湿原や草原が広がっています。さらにその外側にはアセビやノリウツギの低木林やミズナラ、ブナなどの高木林が広がっています。河川部ではカワガラスなどの水辺で生活する鳥、湿原や草原部ではホオアカなどの草原性の鳥、そして森林部ではヤマガラなどの森林性の鳥が生活しています。



坊ガツル湿原

河川・水辺で生活する鳥

鳴子川ではカワガラスとキセキレイが確認されました。カワガラスは水中にもぐって小型の魚や水生昆虫を採ります。キセキレイは水辺の石の上などを歩き回りながら、水生昆虫を探してエサにします。



カワガラス (留鳥)

湿原・草原で生活する鳥

ヨシやヌマガヤ、ススキなどが群生する湿原・草原部では、ホオジロ、ホオアカ、セッカ、キジが生息しています。繁殖期、ホオジロやホオアカ、セッカは草地で昆虫やクモなどをとらえ、ヒナにエサを与えます。キジは卵からかえったばかりのヒナを連れて、草にかくれるようにエサ探しをします。



ホオジロ (留鳥)

森林で生活する鳥

春から夏にかけては、オオルリやキビタキ、カッコウ、ホトトギスなどが、南の国から渡ってきて繁殖を行います。カッコウやホトトギスは自分では巣を作らず、モズやウグイスなどの他の鳥に卵をあずけて育ててもらいます。ヤマガラやコゲラ、カケスなどは一年中見られ、繁殖から子育てをこの森林部で行います。



カケス (留鳥)

坊ガツル地域で観察される野鳥

夏鳥：春から初夏にかけて、東南アジアなどの南の国から渡ってきて繁殖を行い、秋には再び南の国へ帰ります。

カッコウ、ホトトギス、ツバメ、キビタキ、オオルリなど

冬鳥：秋、北の国から渡ってきて冬を越し、春には、再び北の国に帰って行きます。

ノスリ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミなど

留鳥：一年中この地域で生活し、繁殖や子育てを行います。

トビ、アオバト、アオゲラ、ヒヨドリ、キセキレイ、ウグイス、ゴジュウカラ、ホオアカ、カケスなど

旅鳥：北の国で繁殖し、越冬のため南の国へ帰る途中でこの地域を通過する鳥です。

サメビタキ、エゾビタキなど



オオルリ♀ (夏鳥)



ノスリ (冬鳥)



ゴジュウカラ (留鳥)



キセキレイ (留鳥)



サメビタキ (旅鳥)

ホオアカの繁殖地

夏、坊ガツルの湿原・草原ではホオアカの繁殖している様子が観察されます。ホオアカは、大分県内では春から夏にかけて、飯田高原や久住、猪の瀬戸、日出生台の高原で繁殖し、冬期には県内各地の平地や海岸部の草地で越冬しています。これらの高原はホオアカの繁殖の南限にあたり、標高の高い草原で繁殖するホオアカにとって、坊ガツルは、タデ原湿原同様、重要な繁殖地の一つになっています。



ホオアカ (留鳥)

外来鳥類の影響

坊ガツル周辺の森林部では、たくさんのソウシチョウが生息しています。ソウシチョウは日本にいる鳥ではなく、人が飼っていたものが逃出して野生化し、数が増えたものです。従来からいるウグイスやメジロなどの野生の鳥たちの生活に与える悪影響が心配されています。ペットなどの取扱いには十分な注意が必要です。



ソウシチョウ (留鳥)